

【短報】下甌島のクロオビヒゲトオサムシとゴミムシ類の記録

クロオビヒゲトオサムシ *Caratoderus venustus* Hisamatsu は、四国・足摺岬から九州南部、屋久島にかけて記録されている(有本, 2013)。筆者は下甌島において本種を採集したので報告する。下甌島は自然林のよく残った島で、植林はほとんど見られないが、林道はよく整備され、ほぼ全域で舗装されている。

また、同島のゴミムシ類の記録も寡聞にして聞かないので記録しておきたい。採集者はいずれも筆者自身である。

同定の労をとっていただいた伊藤昇氏に心からお礼申し上げる。

クロオビヒゲトオサムシ *Caratoderus venustus* Hisamatsu

1 ex., 手打, 25. V. 2013.

採集地は、日当たりのよい林道わきで、下草の叩き網により採集した。

Bembidion semilutitum Bates

1 ex., 手打, 25. V. 2013.

ルイスオオゴミムシ *Trigonotoma lewisi* Bates

2 exs., 尾岳, 24. V. 2013.

キンモリヒラタゴミムシ *Colpodes silphys silphys* Bates

1 ex., 手打, 25. V. 2013.

イクビモリヒラタゴミムシ *Colpodes modestior* Bates

4 exs., 手打, 25. V. 2013; 8 exs., 尾岳, 24. V. 2013.

ヒメツヤヒラタゴミムシ *Synuchus dulcigrades* (Bates)

2 exs., 尾岳, 24. V. 2013.

Amara ovata (Fabricius)

1 ex., 手打, 25. V. 2013.

ウスアカクロゴモクムシ *Harpalus sinicus sinicus* Hope

1 ex., 手打, 25. V. 2013.

サタツヤゴモクムシ *Trichotichunus sataensis* Habu et Nakane

5 exs., 尾岳, 24. V. 2013.

ヒメヨツボシゴミムシ *Microcosmodes flavopilosus* (Lafere)

1 ex., 尾岳, 24. V. 2013.

ヒラタアトキリゴミムシ *Parena cavipennis* (Bates)

1 ex., 手打, 25. V. 2013.

オオヒラタアトキリゴミムシ *Parena laesipennis* (Bates)

1 ex., 手打, 25. V. 2013.

アオヘリアトキリゴミムシ *Parena latecincta* (Bates)

2 exs., 尾岳, 24. V. 2013.

引用文献

有本晃一, 2013. 九州本土におけるクロオビヒゲトオサムシの記録. 月刊むし, (509): 42.

(林 靖彦 666-0116 川西市水明台
3丁目1-73)

【短報】モンクチビルテントウの神奈川県からの記録

モンクチビルテントウ *Platynaspidius maculosus* (Weise, 1910) は、中国の福州を基準産地として記載されたヨツボシテントウ族 *Platynaspini* に含まれる小型のテントウムシである。中国全土に広く分布し、台湾、ベトナムでの記録が知られていたが、日本未記録のモンマダラテントウの和名で沖縄県沖縄島から記録された(松原ほか, 1998)。その後、同じ沖縄島よりモンマダラテントウからモンクチビルテントウの和名に改称されて記録された(佐々治ほか, 2003)。さらに九州南部の鹿児島県や沖永良部島からも記録され(今坂, 2006; 塚田, 2009)、福岡県では分布記録に加えて越冬の状況についても報告されている(城戸, 2010)。これに続いて静岡県からも記録され(石川, 2011)、同じ静岡県内の柑橘園では2010年から2012年に粘着式トラップによる成虫の捕獲により、季節的消長が報告されている(Kaneko, 2013)。なお、東京都からは未発表ではあるが確認されている(インターネット情報など)。

今回、筆者は下記のように神奈川県で本種を確認しているので、分布資料として記録しておきたい。

1ex. (図1), 神奈川県大和市中央林間, 12. IX. 2013.

小田急江ノ島線中央林間駅ホーム脇の草地で確認した(図2)。エノコログサ葉表上の基部から先端部にかけての約10cmの間を機敏に行き来する行動をしばらく観察していたが、体長と斑紋が類似する同族のヨツボシテントウとはその斑紋のコントラストが明るく異なって見えたため採集した。本種の分布記録は現在のところ上記のとおりで、四国と中国地方から関西においては確認されていない。人為的および虫自体による分布拡散が今後どのような方向を示すのか、その動態に注目したい。また今回の確認個体は、石川(2011)が指摘しているような、上翅会合部黒紋が、基部から翅端部まで連続するタイプであった。仮に遺伝的に異なるタイプが存在するのであれば、沖縄・九州産と静岡県・神奈川県産は、あるいは侵入経路が異なることも考えられる。